

大切なことを大切に

横浜市小学校社会科研究会
会 長 野 間 義 晴

本年度の横浜市小学校社会科研究会総会において、令和7年度第38代会長を拝命することになりました。微力ながら研究会の発展のために尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

社会科について、「どう学習を進めたらよいか。」「教材をどうしたらよいかかわらない。」など、教科の難しさを耳にすることがあります。次期学習指導要領改訂に向けてGIGAスクールや教育DX構想をはじめ、これまでにない学校のあり方が求められていますが、大切にしたいのは「授業」です。

「授業」では、事実と出会い、「おや？・あれっ？」と問題意識をもって追究し、「きっとこうかもしれない。」と自分なりの考えをつきあわせて、みんなで考え合う中で「なるほど。」と自分の考えを深めたり広げたりしていきます。その延長線上に「でもさあ。」とまた新たな問題意識が生まれ、追究がスパイラルに続いていくことで、新たな概念を切り拓いていくのです。こうした追究のスパイラルにおいて私たちは、個とともに集団のもつ輝きを大切にしてきました。

社会科は全人的な学びを目指さなければなりません。その具体は、毎月の研修会や市や県の授業研究会において、子どもの姿を語り合う中から、よりよい社会科学習の在り方を研究する姿にも生かされています。令和2年度にはコロナ禍において多くの困難の中、全国大会を開催し、参会の先生方から貴重なご指導とともに、「その後の大会の礎になった。」という声をいただき、それが今でも研究を進める大きな力になっています。

現実社会では、世界の国々での紛争が解決することなく長期化し、地球温暖化の問題は増々深刻化しています。また、少子高齢化に人口減少、インバウンドの増加、SNSやAIの進化等により私たち国民生活も大きな変換期を迎えており、ますます予測困難で正解のない問題を解決していかなければならない社会となっています。

このような状況の中で社会科の果たす役割は大きくなるばかりです。本研究会では、前回の全国大会以来、「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育～学んだことを社会や生活に生かす学習過程の在り方～」を研究主題に掲げ、自分と社会とのつながりを実感しながら主体的・協働的に学習問題を追究し、よりよい社会のあり方を考え、未来を創っていこうとする子どもの育成をめざして、社会科授業の研究を進めているところです。

本研究会で大切にしてきた、「授業」における子どもの姿を中心に据えた研究の姿勢を今年度も大切にし、未来を創る子どもが育つ社会科教育の具現化のために取り組んでまいります。これまでの研究の積み重ねをもとに、何よりも、よりよい「授業」を子どもとともに創りたいという熱い想いをもち、みなさまと手を携えながら、来る令和10年度の全小社神奈川大会を見据え、新たに大切にできる研究を生み出していきたいと思っております。